

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日. Values include 4070702685, (株)プロデュース, グループホーム きらめき, 福岡県北九州市八幡西区本城東1丁目11-27, 令和2年1月30日.

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Values include 公益社団法人福岡県介護福祉士会, 福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階, 令和2年2月29日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営理念である「明るい挨拶元気な会社」をめざし、スタッフ一同、毎朝笑顔で元気に利用者様への挨拶から始まります。笑顔で声かけを行い利用者様のその時その時の気持ちを汲み取り、また健康状態なども把握して、お一人お一人に寄り添い向き合っ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 58-64 describe service outcomes for staff, users, and staff support.

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者会議や運営会議・各ユニット会議にて参加職員全員で理念を唱和し意識を高めている。理念に基づき利用者様の意見を尊重して介護を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市民センターにて毎月行われているふれあい昼食会に参加し地域の方と交流している。近くの公園などに散歩に出かけ、挨拶を交わすなど・・・行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などでGH内の認知症の方のにやり・ほっとなどで紹介しながら理解。勉強会を行っている。ご家族様に認知症の利用者様の体験談等を話して頂き他の参加者様と共有して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設運営状況や空き部屋の情報及び利用者様の日常のP生活の様子などの報告をしている。ヒヤリ・ハット・運営状況・行事など、参加者にお伝えし、意見を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの担当者も参加して頂いており、協力関係を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯は玄関を施錠しているが日中は玄関を解放している。身体拘束廃止委員会を設置し定期的に者に勉強会などを実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	書面に残るよう、ヒヤリ・ハットの報告書等、出して頂くようにしている。身体拘束廃止委員会による会議の場にて議題を挙げるなどし、互いに意識して注意し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は勉強会にて学ぶ機会を持ち、会議などで意見や提案を出し合うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際はご家族やご本人に見学して頂きご説明をしている。ご理解・納得をして頂いたうえで契約をして頂いている。センター方式を活用しご本人の生活状況などを聞き取るようにしご意見・ご要望をお聞きしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、ご家族様のご意見やご要望をお聞きし改善すべきところは速やかに改善するように努めている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回の個人面談を行い、またストレスチェック等のアンケートなども使用し意見を出しやすいようにしている。月に1回の運営会議や各ユニット会議などでも職員の意見・要望・提案を聞き改善の必要性のあるところから改善している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回、管理者会議を開催しその時点での管理者や職員の状況などを把握するようにしている。時間を作り面談や相談を行い職場環境や労働条件の向上に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	諸君には20歳代から70歳代の高齢者がおり、個々の能力を発揮しながら互いに良いところを認め合い、補い合っ利用者に対応できるよう配慮している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内での勉強会などを行っていたり理念に沿ったケアの方針などにも取り組めるように発信して下さっている。利用者の人権を尊重し謙虚と感謝の気持ちでケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の面談にも力を入れてくださり意見や協力的指導を実践して下さる。外部講師を招いて研修会などを実施。また認知症についての勉強会を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	きらめきに入ってらっしゃる外部の業者の方との交流や学びの時間を作ったりしている。徘徊ネットワークや協同組合などに参加し、同業者などとの交流および情報交換をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当日、1日のはじめ等に顔色や声のトーンを確認したりして、個々に耳を傾けフォロー的なケアに努めている。センター方式の活用が信頼関係の構築に役立っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時に日ごろの様子など声をかけていくことで家族の思いなどにも寄り添う事をしている。フェイスシートを把握し関係を作っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	数日の関わりにて管理者やケアマネジャーと話し合いを行っていき対応に努めている。センター方式によって得られた情報を活用してケアをするように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	冗談を言い合ったり笑顔になる声かけを行い、此処にいてもいいんだと思える場作りをしている。感謝の言葉を忘れず、共に喜び合える信頼関係を築けるよう努める。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来られたら笑顔で挨拶をし話しやすい空気を作り相談を受けやすいように努めている。運営推進会議などの行事にもご家族様に参加して頂けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔、顔なじみの知人が面会に来られている。面会の時間は特に制限がないことなどを伝え、無理な場合はお電話などで関係が継続できるように支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に立ち耳が遠い方などに他の利用者様が言われたことなどを伝えたりして、会話が途切れないような支援をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者のご家族が訪ねられて来られることもあり必要に応じて電話による相談にも応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居してからの状態把握にはなるが本人が一番どうして欲しいか等、本人に聞いたり意思疎通ができない場合はご本人の立場になってスタッフと話し合いを行いケアにあたっている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式などを使用し今までの暮らしに近い状態での支援が出来るように取組みをしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者のリズムによって、ご本人様本位でのスタッフの対応等も考え行っている。毎月のカンファレンスで現在の状況把握を行うようにし支援の在り方を検討している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1か月1回、ユニット会議などで取り上げその方に必要なケアを考える時間を作っている。ケア方針を検討した上で実践することを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録へ記入し変化などがあった場合はスタッフ会議で話し合い計画・ケアへ反映している。変化が有った都度ご家族へ報告している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族やご本人様のニーズ・状況に合わせてサービスを提供している。外出レクや行事レク等を取り入れている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のふれあい昼食会へ参加させて頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の往診にて健康チェックが実施できている。必要に応じて緊急往診や対応の指示・協力を受けている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問にて健康チェックが実施できている。変化のある方に関しての申し送りを徹底し支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、生活情報を提供。病状が安定したら早期退院をお願いしている。入・退院時のカンファレンスにご家族と出席し情報交換を行いスタッフへも伝達できている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・医師と密に情報交換し状態変化が有るときはその都度意向を確認し、満足頂ける終末期を迎えられる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	起こりうる急変時・事故などは再度職員へ伝え対応の手順を再確認している。AEDを設置し使用法などの訓練を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災訓練の実施や消火・避難訓練を実施している。社内にてタイムラインの研修を取り入れ具体的な避難等についても話し合いが出来ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者がお一人お一人に合わせた声掛け・ケアをしている。言葉使いにも気を付けるよう指導している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言動やシグナルを見落とさず声かけ・対応できるよう努めている。レクの参加や外出時、自己決定が出来るよう声掛けしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の希望や状態を見て声かけ、一人一人のペースに合わせている。その人らしい暮らし方を大切に支援するよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に合わせている。外出時など一緒に着る物を選んで決めている。理・美容に行きカラーやカットをご本人の希望に合わせている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話で出た食べたい物などは都度献立に反映している。一人一人の状態に合わせて下膳やテーブル拭きなど一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量・水分摂取量をチェックし状態を把握し対応している。自力での摂取を促し必要に応じて介助を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い一人一人に応じたケア、見守りを行っている。必要に応じた介助や歯科受診を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握しトイレにて排泄できるよう支援している。必要に応じて声かけ・誘導・介助を行い自尊心を損なわれない様さりげなく支援している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握・体操等の運動、毎朝のバナナ入りヨーグルト等自然排便を促す工夫・支援を行っている。医師の指導のもと下剤内服の調整管理を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回程度で1対1でゆっくりと入浴して頂けるよう支援している。希望に応じて臨機応変に対応している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠の状態や時間を把握している。年齢や症状に応じて日中でも声かけをしご本人の希望や状態に合わせて休んで頂けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一覧や薬手帳で確認できるようにしている。新しく処方された薬があるときは必ず申し送っている。スタッフ全員が内服などの理解と確認に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に一度の音楽療法やアロマハンドマッサージ、日々のレクやおやつなどご本人の希望や嗜好を考慮して支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩にお連れしてる。また近くのスーパーマーケットに職員と一緒に買い物に行っている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で所持されている方もいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人と家族の希望があればいつでも電話できる体制にある。携帯電話を持っている方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節を感じて頂けるように花や飾りで工夫している。室内の温度・湿度・換気に気を付けている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置し自由に過ごして頂ける空間がある。一人でゆっくりしたい時や気の合う方とゆっくり話せるスペースになっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていたタンスや家具を持ち込まれたり、写真や飾りでご本人が心地よく過ごせるようにしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人に合わせ出来ることは見守り安全に過ごして頂けるよう支援している。		